

子どもは未来をつかみたい

2020年度年次報告 2021年度年次計画
(認定) 特定非営利活動法人**ラオスのこども**



2020年度 第19期 事業報告

この1年……………	p2
ラオスでのプロジェクト	
I. 本に出会い、親しむ(読書推進活動) ……	p3
II. 本をつくる(出版プロジェクト) ……	p4
III. 集い、表現し、学び合う(子どもセンター) ……	p5
日本での活動……………	p6
組織の運営……………	p7
2020年度 第19期 会計報告……………	p8
2021年度 第20期 事業計画・予算……………	p9



- ★ 中等学校の図書館整備事業・奨学金事業 3校
- 学校図書室(HakArn)整備事業 今期実施地域

「ラオスのこども」とは？

はじまり

1982年、ベトナム戦争後の長引く混乱と停滞の中、東京在住のラオス人と日本の友人などが、「ラオスの子どもたちも日本の子どもたちと同じように絵本を楽しんでほしい」と幼稚園のバザーなどで集めた絵本をラオスに送りました。これが「ラオスのこども」の活動の始まりです。

足どり・活動の柱

本も書店も図書館もほとんどなく、読書をする人も少ないラオスでは、多くの先生にとって、絵本は初めて出会うものでした。1990年代に入り、会はラオス語の絵本出版を開始。あわせて、子どもと本とをつなぐ先生のトレーニングなど読書の推進普及に力を注ぎました。また、学校では音楽・図工・体育や部活動が行われていないことから、そうした活動ができる児童館のような「子どもセンター」を各地で開設支援しました。

めざすもの 子どもは未来をつかみたい

「ラオスのこども」の組織の理念は、校正で平和な社会づくりに貢献することを目的として、子どもたちが自ら

の力を伸ばし、人生を主体的に選択できるよう、日本とラオスの人々が協働しながら、読書に親しむ環境をつくることです。

これまでの取り組み、成果

当会は読書推進活動の拠点として、学校と地域に焦点をあてています。各図書室を訪問し、状況に応じた指導を繰り返し丁寧におこなうことで、図書活動が活発化しています。ラオスの小中高校10,638校(小学校8,822校、中学校1,816校)のうち、329ヵ所で図書室(うち16ヵ所は地域文庫)を開設し、2,732校に図書セットを配付。2,653校でフォローアップ活動をしました。

出版では、民話、創作絵本、紙芝居や海外作品の翻訳など、多彩な出版をしました。今年度末までに、ラオス語図書228種類 924,555冊(図書189/紙芝居19/教科書類6/ニュースレター10)を現地出版しました。

学校外において子ども同士で様々な活動ができる「子どもセンター」は、これまでに全国14ヶ所の運営を支援してきています。

2020年度 第19期 事業報告 (2020年7月1日～2021年6月30日)

この1年

2020年から世界に広まったコロナ禍の影響を、当会の活動も大きく受けています。ラオスでは何回かのロックダウン（他都市への移動禁止令）があり、ヴィエンチャン県で進めている中等学校図書館整備を通した読書推進事業の実施のために、ラオス事務所スタッフが県境を越えセミナー調整、実施などのために事業地を訪れることが制限され、プログラム進行に遅れが出ました。また図書館建設の監理や図書館担当の先生方、行政官に対するセミナーのための日本人専門家派遣が1年半にわたり不可能となり、代わりにオンラインによるアドバイスをおこないましたが、現場の空気感、細部のニュアンスなどは、必ずしも充分に把握できない思いは残りました。

東京事務所は、ほぼ一年にわたり基本テレワーク体制となっています。各種イベント開催が引き続き開催不可能となったことにより、組織運営費の調達に大きな影響を与えました。このような困難な状況の下、ご支援をいただいている皆さまからは、特別募金や冬募金、カレンダー購入などにより多大なご支援をいただき、決算を黒字とできたこと深く感謝しています。厳しい環境でしたが、オンラインによる事業調整や、イベントの開催、さらに多様なメディアを用いた広報などが定着し、各スタッフの努力により、これまでとは違う取り組み方の工夫により、コロナの影響を最低限抑えることもできたと感じています。

活動の課題、重点的取り組み

2020年度も、第8次中期計画に基づき活動を展開しました。これまでと変わらず、国際協力NGOとして活動の質を高め、安定した運営が長期的におこなえるよう取り組みを継続しました。駐在スタッフの努力もあり、コロナ禍でも、東京事務所とラオス事務所の情報共有が継

続し、組織運営および事業におけるPDCAサイクル(Plan計画→ Do実行→ Check評価→ Act改善)が定着してきました。

昨年度から始まった、日本NGO連携無償資金協力事業によるヴィエンチャン県での図書館整備を通した読書推進事業は2年目に入り、中等学校2校での図書館建設に取り組みました。着工が遅れるなどコロナの影響がありましたらが、現地業者の努力により大きな問題はなく完成させることができました。その後、生徒、先生方および村人（村教育開発委員会VEDC）を対象とした、図書利用、管理のトレーニングを実施し、昨年度開設したポンサイ中等学校では、図書館を授業でより積極的に生かす方法を考えるレクチャー、さらに、モニタリング、活動評価もおこない、事業成果を確認することができました。この事業は2022年春に終了します。その後、どのような活動に取り組むことに意味があるのか、話し合いを繰りかえしおこないました。その結果、新しい枠組を求めるより、現在のプロジェクト地ヴィエンチャン県で、学校の図書館を中心とする読書推進運動の定着、図書館利用の質を高める試みをおこなうべきだという意見で、方向性がまとまりました。

広報、資金調達において特徴的であったことは、「家でできるボランティア」として、ラオス語絵本プロジェクトに予想以上の個人や企業の参加があったことです。参加の皆様にも活動をより詳しく知っていただき、継続的に支援していただけるよう組み立てる必要性を感じています。ラオス事務所で昨年度開始した読み聞かせ動画により、広く子ども達に絵本を親しんでもらう試みは、評判も良く、継続して新しい本や紙芝居を追加しています。

今年度も大変困難であった年でしたが、オンラインを利用したイベントの開催や、活動参加など、新しい試みが定着し始めており、次の展望につながると期待します。

ラオス教育データ

純就学率^{*1}進学率の推移(全国平均)

年度	純就学率(%)		中等学校 進学率
	小学校	中等学校 ^{*2}	
2005-2006	83.9	51.7	
2010-2011	94.1	62.9	87.6
2015-2016	98.8	82.2	93.8
2018-2019	99.0	82.8	87.9
2020-2021	98.8	80.4	88.3

入学した児童生徒が卒業する割合 2020-2021

県別	小学校	中等学校前期
全国平均	80.7	65.1
アタプー県	72.3	58.4
カムワン県	77.2	63.2
ヴィエンチャン県	82.5	67.7

小中学校の就学率や中等学校への進学率は年々上がっており、ラオスの教育環境が徐々に改善されていることがうかがえます。一方で、小中学校に入学しても、卒業できない子ども達は小学校で5人に1人、中等学校前期課程で3人1人います。特に近年は、中等学校での卒業率が低下しており、せっかく進学しても、卒業ができない生徒が増えている状況がみられます。

*1 純就学率：教育を受けるべき年齢に実際に教育を受けている人の割合

*2 中等学校は7年間あり、1～4年が前期課程、5年～7年が後期課程で、日本の中学、高校レベルにあたる

(出典)教育スポーツ省 Annual School Census

本に出会い、親しむ（読書推進活動）

ラオスでは図書館や書店が身近でない地域が多く、学校で読み書きを習っても、学校を離れると日常で文字にふれる機会がなく、やがて読み書きができなくなってしまう状況が続いていました。新しい知識や技術を学びたくとも、読み書きができるないとチャンスが限られます。そこで当会では、子ども達に本を届け、読書の楽しみを伝える活動をおこなってきました。ラオス国立図書館、教育スポーツ省、県・郡教育局と連携し、1992年から約3,000校に図書セットを配付し、329校に図書室を開設し、読書習慣の普及を図ってきました。

そして今、私達が取り組んでいるのは、子ども達の「もっと読みたい」「もっと学びたい」を支える活動が、ラオスの人々自らにより担われ、広さと深さを持つようになることです。そのため当会は、学校教員、教育局、保護者、地域住民など子どもを取り巻く人々が本に関心をもてるよう、多方面から改善のためのアプローチをしています。

中等学校での図書館建設整備事業

1) 関係機関との協働枠組みの構築

図書館を建設するヴィエンチャン県サカ中等学校とビンフープ中等学校の村教育開発委員会(VEDC)のメンバーに、学校図書館の意義や役割を伝え、持続可能な図書館運営となるサポートを共に検討しました。

2) 図書館の建設

サカ・ビンフープ両校での建設工事は、コロナ禍により建築家が現地に渡航できなくなり、ラオス人施工監理者と隨時進捗状況を把握しながら進めました。現地立会に比べ意思疎通に難しい部分もありましたが、工事はほぼ予定通りに進み、床面積120m²、78席、本棚10台の規模の図書館が9月末に完成しました。蔵書は3,202冊（ラオス語89%、タイ語10%、英語1%）で、教科書やカリキュラムに適した本を選びました。



サカ中等学校



ビンフープ中等学校

3) 教員及び生徒のトレーニング

サカ・ビンフープ各校で、教員5名とボランティア生徒15名に対し、ラオス国立図書館と共に、図書登録・貸出・



記録などの図書館の運営方法と、劇・輪読・ゲームなどの図書活用手法を伝授しました。

4) 図書館応用研修

図書館開設2年目となるポンサイ中等学校では、図書館活動の活性化と学校教育に寄与する図書館活動の実践を目指し、図書館専門家下田尊久さんのオンラインレクチャーを含めた「授業における図書活用」と「図書館サイン・展示」の研修を実施しました。



5) モニタリングと評価

1月に各校で図書館の運営や活用状況に関する評価インタビュー調査をおこないました。1日あたりの生徒の来館率は、ポンサイ中等学校では16%（目標値10%）、サカ・ビンフープ中等学校では26%（目標値8%）に達し、予想以上の利用がありました。また、ポンサイでは、研修を受けた9割以上の教員が、研修後に図書を活用した授業を実践している状況がみられました。

オンラインにより日本とラオス合同で評価分析を実施した後、関係者53名と共に評議会議を実施しました。

6) 3年次の事業開始

3月1日に在ラオス日本大使館にて、3年次事業の署名をおこない最終年度の事業を開始。各郡教育局、各VEDCと当団体の三者による協定書(MoA)を締結し、同時に学校図書館運営計画策定ワークショップとネットワーク研修を実施しました。4月下旬、サカ・ビンフープ両校で図書館応用研修を実施している最中、ロックダウンが発令され途中で中止することとなりました。その後も県外移動制限が続き、活動は延期され



ています。

図書館が出来てからの変化を尋ねてみたところ、「教科書以外の本を読むことが出来るようになった」「勉強する場所ができた」「本がおもしろい」という声が生徒からきかれました。先生は「これまで色々と教えてても、生徒が自分で調べることができなかつたが、図書館できてからは、自分で調べる宿題を出したり、授業の際に図書館の本のを使い、図表を見せたりすることが出来るようになった」と嬉しそうに話してくれました。

(日本NGO連携無償資金協力事業)



2ヶ所の小中学校に図書室をオープン

既存の学校図書室のフォローアップ活動は、3月までにヴィエンチャン都3校、アタープー県5校、ヴィエンチャン県2校を訪問し、図書の補充と運営研修を実施。また、18校の既存図書室に図書を補充しました。

新規開設はヴィエンチャン県ナーサム中等学校、アタープー県ヴァンタッド中学校の2校で実施。開設時には担当教員を対象に図書館運営研修を実施しました。

さらに今期は12校の図書室を訪問することができ、課題であったフォローアップ活動に力を入れ、各校の状況に合わせたきめ細やかな対応を行いました。

(ご支援:(株)OKI愛の募金、福岡那の香ライオンズクラブ、指定募金、緊急募金、キヤハノ財團、(公財)ベルマーク教育助成財团)

事務所併設子ども図書館の活動状況

首都ロックダウンや学校閉鎖に伴い、2020年3月～8月、2021年4月22日～6月30日の期間は図書館を閉鎖しました。開館期間は、ヴィエンチャンの状況を鑑み、これまでの週6日から、週5日の体制に変更しました。学校再開後も昼休み中の生徒の外出を学校が禁止したため、来館者数は1ヶ月平均20人と減少しました。

10月と11月に、専門家下田尊久さんと渡邊駐在員のもと、ラオス事務所スタッフが「図書館サイン・展示」「授業における図書活用」の実務研修を実施し、テーマ展示を4点実践したほか、研修を通じて、スタッフの図書館活動のスキルアップを図ることが出来ました。

本をつくる（出版プロジェクト）

ラオスでは、首都でも書店や図書館がほとんど見当たらず、本を目にする機会がありません。子どもたちが本に親しむには、ラオス語で書かれたものが不可欠なことから、当会では1990年から絵本を中心にラオスでの出版を手がけてきました。作家がほとんどいない中、日本人やタイ人の専門家による絵本作りセミナーやコンクールを通して、若手作家を発掘・育成し、図書や紙芝居を出版してきました。近年はファッショングや流行情報を発信する雑誌も登場し、出版を取り巻く状況は急速に変化しつつあります。首都では図書を販売する場所が少しずつ増えていますが、子ども向けの書籍はバラエティが少なく、質の向上が課題です。若者にはスマートフォンが普及していますが、基礎的な読解力を育てるためには、読書が必要です。私たちは「子どもの心に灯をともす」ような、質の高い本作りを目指しています。

人気の図書4点5,800冊を出版



『家のまわりの虫』

文・写真)スックパンサー プーパスック 第2版 1,800部

この本は、ラオスに生息する身近な虫をわかりやすく紹介しています。2013年に出版し在庫切れとなっていましたが、「生物」などの授業で教材としてより活用してもらうことを視野に入れて再版しました。

(ご支援 学習院女子大学 絵本出版指定募金)



『私の村の料理』

文・写真)カムパケオ インタヴォン他3名 第2版 1,000部

ラオス各地の郷土料理を集めたレシピ本。若手育成ワークショップの参加者が作成したもので、2016年に出版してから売れ行きが良好販売分が在庫切れになっていたこと、授業での活用を兼ねて再版しました。

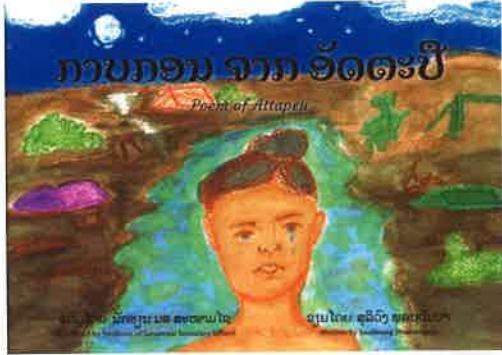
(ご支援 学習院女子大学 絵本出版指定募金)

『なんのどうぶつ～文字絵本1～』

詩)ドゥアンドゥアン ブンニヤヴィオン 絵)絵本制作セミナー参加者7名合作 第7版 500部

小学校低学年向けにラオス語の文字や単語を楽しく学ぶための絵本として評価が高く、学校配布用として国際機関より要望があり増刷しました。

(ご支援 絵本出版指定募金)



『アタプーの詩』

文)スリヴィオン ポンヴァンナー 絵)サナームサイ中等学校の生徒達 初版 2,500部
(ご支援 公益信託 大成建設自然・歴史環境基金)



2018年にダム水害被害を受けたアタプー県のサナームサイ中等学校の先生と生徒の合作による詩集絵本。12月に学校で生徒たちと「絵本制作ワークショップ」を実施し制作しました。2021年5月に予定していた出版本の活用ワークショップは、コロナの影響で延期となりました。

もっと学ぶことが出来るように（奨学金事業）

図書館建設整備事業を実施しているヴィエンチャン県ポンホーン郡ポンサイ中等学校、サカ中等学校、ビンフープ郡ビンフープ中等学校の3校にて奨学金事業を実施。10月に募集を開始し、11月に選考会議をおこない、4～7年生から各校5名、合計15名の学生を決定し、12月に奨学金を給付しました。

奨学生達は、両親と離れ祖父母や先生の家で暮らしたり、家計を支えるために、土日はゴム工場で働いたり、織物を織り市場で売るなど、就学を継続することが困難な状況にありました。



奨学金受給後の様子を聞くと、「奨学金がもらえたおかげで、学費のことを心配する必要がなくなり、勉強に集中できるようになった」とうです。それでも、夜は家の仕事や電気代がかかるため、学校にいる間に集中して勉強しているとのこと。当会が開設支援した図書館を、学習に活用していた様子もうかがえました。

懸命に勉強し、郡の統一テストで上位の成績をとったり、大学への進学が決まったという生徒もいました。学費や通学バス代を捻出するために学習時間を削って働くなどしていた生徒たちに、学習を続ける機会を提供することができました。

この奨学金支援に関する「マンスリーサポーター通信」は2回発行しました。
(ご支援 マンスリーサポーター、指定寄付)



集い、表現し、学び合う（子どもセンター）

ラオスの学校は、座学による暗記が中心で、子どもたちの情操面を伸ばすような活動をする機会がないという状況があり、1994年に、当会などの協力によって、自己表現活動ができるラオス初の子ども施設として「子ども文化センター」が開設されました。その後、活動は定着し、同様の施設が全都県に設置され広がりましたが、近年は社会変化にともない来館者が減少し、活動が停滞している館が増えています。当会では、自立を促す方向から、各センターの個別支援を減らしてきましたが、センターの活動再建のためのサポートを検討しています。

今期は他事業との業務バランスや資金状況から、当該事業に関する業務を実施する余裕がありませんでした。

日本での活動

日本では、活動を広く知らせ、ご支援、参加の呼びかけなどをおこなっています。また、どなたにも参加いただける、ラオスの文化や食を紹介するイベントや、学校に出向いて国際理解教育の参加型プログラムも実施しています。いずれのイベントもインターンやボランティアの仲間とともに作り上げています。

中学校・高等学校・大学で授業

今期も継続してオンライン開催と対面を合わせて、5件の講師派遣を実施することが出来ました。オンライン形式による出前講座は、当会の活動への理解を促進するツールとして、安定的に実施できるようになってきています。

参加型プログラム

●ラオス語絵本プロジェクト

今期のプログラム申込者は96件で、合計888冊の絵本が作成され、前期よりも2件198冊増加しました。また、企業で取り組む「絵本作りイベント」も、在宅での実施となつたことで参加者が増え、完成する絵本も増加しました。

昨年に引き続き、外出自粛中に「自宅でできるボランティア」として注目されており、個人での新規申込も引き続き増加しています。参加者には継続した参加や他の活動へ協力いただく例もあります。

参加が増えていますが、国際協力への参加機会の提供に留まらず、「ラオスのこと」のNGOとしてのメッセージをきっちり発信し、支援者の増加と結びつけるには、更なる工夫が必要とされています。また需要が高い一方で、ラオスへの図書輸送の業務も加わり、在宅勤務を併用しながら対応するスタッフの負担が高く、工夫の余地があります。翻訳シートデジタル化と改訂作業は、インターン活動として少しずつ進めました。

●書き損じハガキの収集

今期は82件、書き損じ・使い残しハガキ2,594枚、未使用切手133,380円のご支援を頂きました。目標値には達しませんでしたが、枚数は766枚増加しました。より収

集を拡大するためには、企業や自治体との共同などプロジェクトの立て方を考え直す必要があり、国内プロジェクトとしてより積極的な働きかけをおこなう準備を始めました。

イベント開催・活動ミーティング

引き続き「エスノースギャラリー」「英國風喫茶メイフィールド」「仙行寺」での展示販売会を実施し、資金調達と共にラオス理解、活動理解を広めました。パルシステム神奈川が開催した「ハートカフェ」にはオンラインで参加しました。



また、昨年度は中止した「ピーマイパーティ」はオンラインにて実施し、ラオス事務所やホアイホンセンターと生中継という初の取り組みにチャレンジしました。30人が参加して開催することができ、新しい広報手法としてオンラインによるイベント開催の可能性を感じることができました。一方、恒例の京都織物展、ラオスフェスティバル、グローバルフェスタ2020は今期も中止となる中で、資金調達を目的とする新たなイベントの開催には至っていません。

組織の運営

1. 全体運営

■理事会

理事7名、監事2名により運営が担われ、年4回理事会を開催し、財政状況、資金調達、プロジェクト運営についての報告のほか、組織運営強化の方策などが話し合われました。オンラインでの実施をおこない、参加は延べ26名でした。

■通常総会

9月12日、2020年度通常総会を活動会員38名(書

面表決者、委任状を含む)、賛助会員・活動協力者10名、計49名が参加し、ライフコミュニティ西馬込で、オンラインを併用して開催しました。

2. 東京事務所

■体制

年間を通じて常勤専従スタッフ2名、非専従事務局長1名で運営を担当しました。今年もまた、会計ボランティアスタッフ2名、インターン6名の継続した協力により大いに事務局が支えられました。

■事業運営

これまで経験したことがない困難な状況において、理事や監事の指導、ボランティアスタッフの貢献、会員や寄付者のご協力により、事業を実施することができました。特に事業運営の安定、質の向上の努力のために、専門家によるアドバイスが大変価値を持ちました。

■組織運営

コロナの影響からテレワークでの業務とせざるを得なくなり、さらに東京スタッフが渡航出来なかつたことにより、両事務所での情報共有において困難な面もありました。しかし「東京しごと財団」の支援によりPC環境の整備をおこない、テレワークでコミュニケーションを維持し、募金活動や、活動の質を向上できました。

また、駐在員により困難な時期におけるラオス事務所との情報共有などをおこなうことが出来、業務上の不安を減らすことができました。

■資金調達・広報

ホームページの更新は順調におこなわれ、Facebookの投稿も、ラオス事務所発信の記事を翻訳して紹介する投稿記事を増やしました。

紙媒体としては、新聞掲載はなかったものの、「ラオスのこども通信」を年3回計4,500部、年次報告書を800部発行しました。

2020年6月から期をまたいで実施した特別募金は、100万円を超える結果となり、活動への期待を改めて実感しました。



また、イベント中止により困難となっている物販による資金調達にかわり、不足する資金を補うために実施した、文字絵本の再版をテーマとした冬募金と、図書室開設を目的としたクラウドファンディングは、多くの皆様のご支援で、目標額を達成することができました。調達額は前年度を超える調達となり、頻繁なソーシャルメディアを通じての広報などが成果をもたらしています。

■人材育成

今期も定期ミーティングにおいて、アドバイサーにより募金、広報、事業評価について継続的にトレーニングを受け業務で成果を生むことができました。オンラインを活用することにより、ラオスで実施する研修に東京スタッフも参加するなど新しい可能性も生まれました。

3. ラオス事務所

■体制

11月に1名が退職し、年間を通して5~6名の現地スタッフと現地アドバイザー1名、日本人駐在員1名により運営されました。

■組織運営

スタッフ会議の定期的な開催や事業活動後の振り返りや年度末の事業・組織評価などにより、スタッフが徐々に、NGOとしての活動全体を見通すことができるようになってきました。年を追うごとに、事業の進捗管理、振り返りなどを自身で行えるようになり、駐在のファシリテートにより、評価でも、状況を見据えた建設的な意見ができるようになってきました。

■資金調達

販売委託先は31か所から36か所に増加。図書販売について、フォーマットを改善し、売上データを詳細に把握できるようにしました。

ラオスで活動するNGO団体への本の売り込みを促進するため、販売本リストを投稿したり、NGO団体等に配布するなどし、図書販売促進に努めました。図書売上は、国際NGOからの大口の発注があり、目標値を大きく上回り、6,888冊(約170万円)を達成しました。

■人材育成

ALC図書館の改善や学校向けの研修を見据えて、専門家によるスタッフへの実務研修を実施しました。駐在員サポートのもと、スタッフ会議の定期開催と月例報告の作成をおこない、事業スケジュールのマネジメント力が向上してきました。

■広報

ラオス国内での団体認知度を高めるため、ラオス事務所のフェイスブックページを開設し、活動紹介や出版本の宣伝をしました。昨年度に開始した、自粛生活の子ども達に向けた動画配信は、2021年カレンダー掲載の紙芝居動画を毎月配信しました。

2021年4月2~3日に「チャンタソン旭日双光章・JICA理事長賞記念イベント」を開催し、ラオスの関係省庁、他国大使館やINGO団体を招待し、活動や出版本を紹介しました。



2020度 第19期 会計報告 (2020年7月1日～2021年6月30日)

活動計算書

科 目	金 額
I 経常収益	
1.受取会費	943,000
2.受取寄付金	7,216,410
3.受取助成金等	28,895,977
4.事業収益	3,929,411
5.その他収益	299,252
経常収益計	41,284,050
II 経常費用	
1.事業費	
(1)人件費	11,614,188
(2)その他経費	24,236,204
事業費計	35,850,392
2.管理費	
(1)人件費	2,687,105
(2)その他経費	2,704,048
管理費計	5,391,153
経常費用計	41,241,545
税引前当期正味財産増減額	42,505
法人税等	70,000
当期正味財産増減額	-27,495
前期繰越正味財産額	4,084,107
次期繰越正味財産額	4,056,612

貸借対照表

科 目	金 額
I 資産の部	
1.流動資産	17,768,395
資産合計	17,768,395
II 負債の部	
1.流動負債	13,711,783
負債合計	13,711,783
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産	4,084,107
当期正味財産増減額	-27,495
正味財産合計	4,056,612
負債及び正味財産合計	17,768,395

事業別損益の状況

科 目	経常収益計	経常費用計
出版事業	2,492,430	1,141,488
中等学校の図書館整備	25,873,273	26,662,514
学校図書室の整備 *1	3,791,399	3,045,381
子どもセンター事業	30,702	23,806
奨学金事業	382,000	383,859
交流事業 *2	1,039,589	1,019,793
収益事業	2,843,786	3,573,551
事業部門計	36,453,179	35,850,392
東京管理費	3,244,883	3,863,346
ラオス管理費	1,585,988	1,527,807
管理部門計	4,830,871	5,391,153
合 計	41,284,050	41,241,545

*1 図書室整備事業には、現地事務所併設図書館運営費、読書推進プロジェクト統括費用が含まれます。

*2 交流事業は、各種イベントや講演会費、ラオス語絵本プロジェクト、講師派遣・訪問受入などが含まれます

NPO法人会計基準に沿った会計システムで会計処理をおこなっています。より詳しい資料は、当会ホームページにてご覧いただけます。

今期の資金調達は、特別募金や冬募金が目標額を達成できたことに加え、クラウドファンディングにも取り組んだ結果「受取寄付金」が昨年度を大きく上回りました。コロナウイルスの影響でイベントが中止となり、売上が大きく減少しましたが、ラオスでの図書販売において大口発注があり「事業収益」は予算を上回ることができました。資金調達の取り組みと経費削減の努力の結果、何とか赤字化を防ぐことができました。

監事からのコメントにあるように、一般寄付が前年度より増えたことは、会に対する応援、信頼の高さの表れだと評価できるとともに、その果たすべき責任の高さも改めて認識する結果でした。非常に厳しい財政状況にありますが、受け取った補助金事業が確実に遂行できるよう、より的確な資金調達計画を立てて、事業が滞りなく進められるようにする必要があります。

監査報告書

特定非営利活動法人 ラオスのこども
代表 チャンタソン インタヴィン 暫

2021年9月4日

特定非営利活動法人 ラオスのこども

監事 月野田 康司
監事 矢崎 芽生

私たち、特定非営利活動法人ラオスのこども 第19期 2020年7月1日から2021年6月30日までの事業年度における、事業及び会計の監査を行い、次の通り報告する。

1. 監査方法の概要
 (1)会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など、必要と思われる監査手続きを用いて、財務諸表ならびに収支計算書の正確性を検討した。
 (2)業務監査について、理事会に出席し、理事及び事務局から業務の報告を聽取し、関係書類の閲覧等、必要と思われる監査手続きを用いて、業務の妥当性を検討した。

2. 監査意見
 (1)活動計算書、貸借対照表、財産目録は、会計帳簿の記載事項と一致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示していると認める。
 (2)業務報告書の内容は、真実であると認める。
 (3)理事の職務執行に関する不正の行為または法令の定款に違反する重大な過失はないと認める。

以上

2021年9月4日に脇田康司監事(弁護士)、矢崎芽生監事(公認会計士)により、監査がおこなわれ、上記の通り、監査報告書を受け取りました。

2021年度 第20期 事業計画 (2021年7月1日～2022年6月30日)

□方向性

第19期では世界に広まったコロナ禍の影響を、当会の活動も大きく受けました。外務省NGO連携無償協力事業としてヴィエンチャン県で進めている「中等学校図書館整備を通した読書推進事業」では、ラオスにおける移動制限によりスケジュールに遅れが出ています。また日本においても、各種イベント開催がことごとく不可能となったことで、組織運営費の調達に影響がありました。

今期もコロナ禍が収束せず、自由な移動などが制約される見込みから、事業への影響を覚悟する必要があります。この影響をどこまで軽減し、事業の成果を達することができるか、覚悟と工夫が求められます。さらに、この10年以上にわたり継続的に提供されてきた日本政府による公的資金が今期は途絶えることになりました。これまで組織運営経費のある程度の部分がこの資金によってまかなわれてきたことを考えると、活動への影響は大きく、運営の体制を根本から変える必要があります。今期においては、組織体制を見直しスリムにするとともに、多くの方からのご支援、ご寄付をこれまで以上に受けることが出来るように、支援者のみなさまへの呼びかけなど、よりメッセージが届く工夫が必要とされます。

新年度も第8次中期計画に基づき、国際協力NGOとして活動の質を高め、安定した運営が長期的におこなえるよう組織運営の明確化、効率化、プロジェクトでの論理性を高める努力を継続しますが、「ラオスのこども」の中心となる事業に活動資源を集中させる意図で、ラオス事務所併設図書館活動の縮小や国内での活動ミーティング・勉強会の一時休止などをおこないます。

プロジェクトにおいては、ヴィエンチャン県で実施してきた読書推進活動を定着させ、活動がラオス側により、継続的、自主的に運営されるような体制づくりに優先的に取り組みます。また、質が高い新刊の出版活動に力を注ぐことで、ラオスでの会の活動意義を再び明確にする努力をおこないます。

2022年1月でラオスのこどもは活動を開始して41年目を迎えます。これまで様々な活動をラオスの子ども達の教育環境向上のために担ってきました。この活動記録の整理をおこない総括することで、第9期中期計画の策定に繋げようと考えます。

今期の運営責任を持つ理事・監事は以下の9名です。

理事	・塩谷 光	・新藤 雅章	・チャンタソン インタヴォン	・西村 恵子
	・野口 朝夫	・森 透		
監事	・矢崎 芽生	・脇田 康司		

ラオスでのプロジェクト

I. 子どもたちが読書に親しむ環境を整える「読書推進活動」

●中等学校の図書館整備を通した読書推進事業

ヴィエンチャン県において開設したポンサイ中等学校、サカ中等学校、ヒンフープ中等学校において図書館整備事業の仕上げをおこないます。「図書館の展示やサンクに関する研修」「授業での図書活用に関する研修」の実施に加え、各学校での「図書館オープンデー」や、3校合同で「図書館研修大会」を実施して、郡教育スポーツ局と村教育開発委員会との連携体制を作ることで、持続する活動として定着することを目指します。



●学校図書室の整備

小中学校の空き教室に本と本棚を提供し、図書室運営に関する教員研修をおこない、学校に図書室を整備することで、子どもたちが日常的に図書に接する機会をつくる活動を継続します。

今期は、新規開設は7か所で実施。また、これまでに設置してきた学校図書室の停滞化を防ぐための活動を強化し、3ヵ所でフォローアップを実施する予定です。

●ALC図書館(ラオス事務所併設図書館)活動

会スタッフにとって、図書館活動の実地研修の場として欠かせないものではありますが、今期の団体の状況から、開館日を調整するなど活動の一部縮小を検討します。

●新規事業の案件形成

これまでの読書推進事業の経験を活かし、特に現在N連事業(I-1)で実施中の中等学校で図書館活用の内容を発展させた事業を、JICA草の根技術協力事業に申請します。

II. 子どもたちに良質な本を提供する「出版活動」

引き続き、専門家のアドバイスを得て、質の高い図書を計画的に出版します。今期は、5タイトルの図書を出版する計画で、販売分も作成します。また、在庫切れになっている図書や、新刊図書については、市場を意識しつつ慎重に出版作品を検討します。さらに新しい図書も企画し出版計画をすすめます。

III. 子どもたちの居場所「子どもセンター運営支援」

全国での現在の活動などの把握を進めますが、支援活動を今年度は休止します。

IV. 奨学金事業

会独自の奨学金事業は、引き続きヴィエンチャン県の3か所の中等学校にて奨学金の給付を実施します。

日本での活動

ラオス理解、活動理解の促進となるよう、目的、成果を明確にした上でイベントを実施・参加します。また、社会情勢に対応し、オンラインでの開催を含めて、実施を広げ、新たな支援者、協力者の開拓を図ります。「ラオス語絵本プロジェクト」については、メディアへの広報を強め、プロジェクトの社会的認知度をあげ、参加者を増やします。個人協力者に加えて、企業・学校・団体と連携して実施とともに、プロジェクト参加者が継続的な支援者となるよう、組み立てを工夫します。

「書き損じ葉書・未使用切手の収集」については、資金調達及び支援者拡大として、個人協力者に加えて、企業・学校・団体からの協力を得るなど、新規支援者の開拓し、活動支援者となるように組み立てます。

組織の運営

東京、ラオス両事務所間での情報共有を深め、組織の運営能力の向上を図ります。これまで以上に対象と成果を明確にした広報活動を強化することで、多くの皆さまからの支援を厚くし、資金調達に結びつけます。

事業成果の継続と発展を重視しつつ、専門家と連携し、プロジェクト運営の質を高めます。認知度を高めるためのメディア戦略を再検討し、「資金調達・広報」活動に取り組みます。

運営においては、両事務所の情報共有が確実となるよう、定期的なオンライン会議をすすめます。また、インターーンに対し、事務所運営やイベントの担い手として参加を高めます。

専門家とアドバイザーの指導と協力を受けつつ、募金、広報、事業評価、図書館運営、出版の領域でスタッフの実務研修を重ねます。

2021年度 第20期 予算 (2021年7月1日～2022年6月30日)

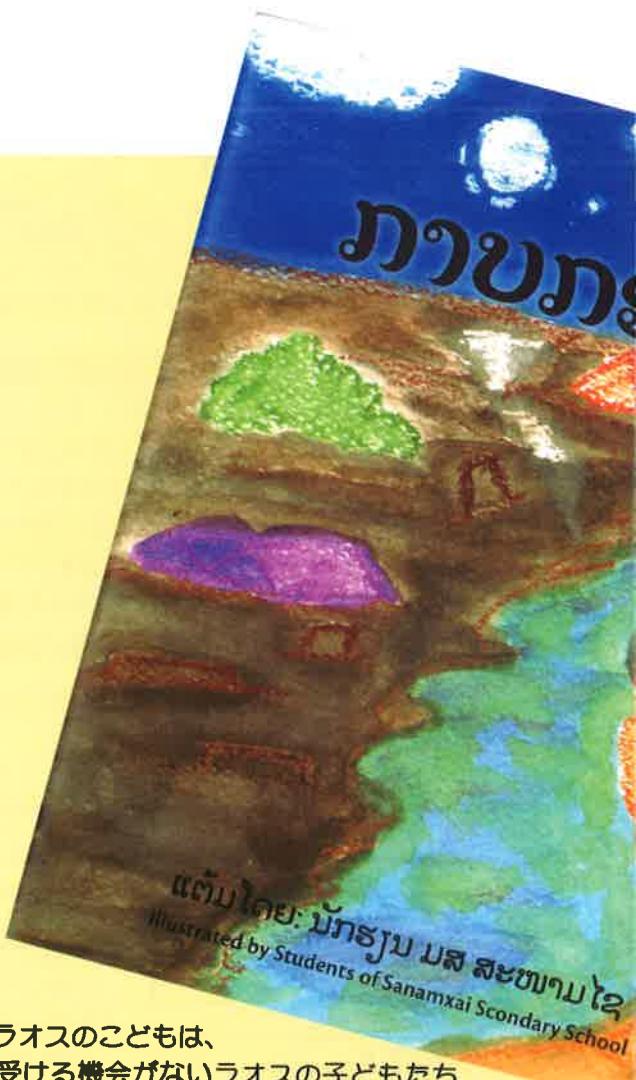
科 目	金 額
I 経常収益	
1.受取会費	1,050,000
2.受取寄付金	5,850,000
3.受取助成金等	13,385,545
4.事業収益	3,750,000
5.その他収益	0
経常収益計	24,035,545
II 経常費用	
1.事業費	
(1)人件費	9,799,065
(2)その他経費	9,637,846
事業費計	19,436,911
2.管理費	
(1)人件費	2,459,767
(2)その他経費	2,036,000
管理費計	4,495,767
経常費用計	23,932,678
税引前当期正味財産増減額	102,867
法人税等	70,000
当期正味財産増減額	32,867

これまで以上に対象と成果を明確にした広報活動を強化することで、多くの皆さまからの支援を厚くし、資金調達に結びつけます。

認知度を高めるためのメディア戦略を再検討し、ラオス関係法人への広報活動を重視します。物品委託先の開発をおこなうとともに、BASEショップのリノベーションに着手します。

サポートー会員入会キャンペーン、書き損じはがき回収キャンペーン、クラウドファンディング、冬募金を計画的に実施し、着実な資金調達をおこないます。





特定非営利活動法人ラオスのこどもは、
今なお十分な教育を受ける機会がないラオスの子どもたち
の成長を願い、1982年から日本とラオスを中心に活動
を続いている国際協力NGOです。おもに、「図書・紙芝居の出版」「学校・地域での図書室設立」「先生向けの図
書室運営・図書活用の研修」「作家・編集者の育成」、子
どもが集い遊び学べる「子どもセンター」の運営支援など
を行い、子どもが自ら学ぶ力を伸ばす環境づくりに取り組
んでいます。

組織の理念

「ラオスのこども」は、公正で平和な社会づくりに貢献する
ことを目的として、子どもたちが自らの力を伸ばし、人生を
主体的に選択できるよう、日本とラオスの人々が協働しなが
ら、読書に親しむ環境をつくります。

(認定) 特定非営利活動法人**ラオスのこども**

〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12, 303
TEL/FAX 03-3755-1603 E-mail altk@deknoylao.net
<http://deknoylao.net>